

研究・調査報告書

報告書番号	担当
373	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳) Interaction between alcohol drinking and obesity in relation to colorectal cancer risk: a case-control study in Newfoundland and Labrador, Canada. 結腸直腸がんリスクに関連するアルコール摂取と肥満の相互作用：カナダ、ニューファンドランド・ラブラドール州の症例対照研究	
執筆者 Zhao J, Zhu Y, Wang PP, West R, Buehler S, Sun Z, Squires J, Roebathan B, McLaughlin JR, Campbell PT, Parfrey PS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) BMC Public Health. 2012 Feb 1;12:94.	
キーワード 症例対照研究、アルコール、肥満、結腸直腸がん、生活習慣、ニューファンドランド	
要 旨 背景： 多くの疫学的論文がアルコール摂取と肥満は結腸直腸がんの潜在的リスク要因であると指摘している一方、二つの間の正の相互作用は十分に研究されていない。アルコール摂取が結腸直腸がんのリスク増加と関連するかどうか、このリスクは肥満とそうでない人とで異なるのかどうかを調査するため症例対照研究を行った。 方法： 新規に結腸直腸がんと診断された症例は 1999 年から 2003 年までにニューファンドランド・ラブラドール州で同定された。症例は年齢と性別によって無作為に電話をかけて選ばれたコントロールと頻度マッチングした。症例 (702 名)、コントロール (717 名) は健康と生活習慣を評価する自己回答による質問紙に完答した。アルコール摂取の推定には飲料の種類、飲酒年数、一日当たりの平均アルコール摂取本数を含んだ。結腸直腸がんのリスクのオッズ比はアルコール単独と肥満の有無による層別化した場合の関連を調査して推定された。 結果： 肥満者 (BMI \geq 30) において、飲酒は非飲酒のカテゴリーと比較して、結腸直腸がんのリスクと強い関連を示した (OR: 2.2; 95%CI: 1.2-4.0)。肥満の人々では、3 種類以上の異なる種類の飲酒は非飲酒者と比べて結腸直腸がんのリスクが 3.4 倍高く関連した。また、結腸直腸がんのリスクは飲酒年数、および肥満者で毎日飲んでいる者で増加した。しかしながら、非肥満者ではリスク上昇が観察されなかった。 結論： 飲酒によるアルコール摂取の結腸直腸がんへの影響は肥満の有無によって異なるようである。	